

新型コロナワクチン 接種後の「真実」を 知っていますか？



● 市民の手によるデータベースとは

私たちがこれまで「安全」と信じて受け入れてきた新型コロナワクチン。その実態について、市民ボランティア(※1)による大規模な調査で、驚くべき事実が明らかになりました。大規模な調査とは、全国の各自治体に行っている、コロナワクチン接種情報の開示請求プロジェクト(現在も継続中)。調査で集めた情報をもとに作成されたデータベース(※2)は、誰でも自由にアクセスでき、自分が接種したロット番号(※3)を入力すると、接種後の死亡者数(因果関係を示すものではない)などがわかるというものです。

● 1,750万件のデータを研究者が解析

2026年2月、その接種データ約1,750万回分の解析結果が発表されました。解析したのは免疫学者の荒川央氏らで、2021年から2024年までの約4年間にわたる膨大なデータから見てきたのは、「接種と死亡リスク」の極めて強い関連性。その概要は、次の①～④のとおりです(詳しい内容は、※4、※5を参照)。

① 死亡のピークは「接種の数カ月後」

これまで、接種直後の副反応ばかりが注目されてきました。しかし、今回の分析で判明したのは、死亡者の多くが「接種から数カ月後」に集中していること。この傾向は全国どの地域でも共通して見られるため、季節の影響などではなく、接種そのものが原因である可能性が極めて高いと指摘されています。

② 接種回数が多いほど高い死亡率

解析結果によれば、最終接種から1年以内の死亡率は、接種回数を重ねるごとに驚くべき数値で上昇しています(表1)。回数が増えるほどリスクが早期化・長期化し、一度接種を止めても「蓄積された害」によるリスクが1年以上続く可能性が警告されています。

③ 国内の死亡者数は約389万人(推計)

このデータを日本全体に当てはめると、2021年から2024年の間に最終接種から1年以内に亡くなった人は、推計で約389万人にも上ります(表2)。特に、本来、健康であるはずの若年層や現役世代でこれほど多くの死亡例が確認されたことは、極めて重大な事態です。(裏面へつづく)

第4号 トピック

- ▶ 新型コロナワクチン接種後の「真実」を知っていますか？
- ▶ 愛西市の集団接種で起きた悲劇から考える
- ▶ 4コマまんが「移民政策のブーメラン」

※1 市民ボランティア

「mRNAワクチン中止を求める国民連合」と「ゆうこく連合」。2団体共同で、全国の自治体に接種情報の開示請求活動を展開中。



◀国民連合HP

※2 データベース

全国の自治体のうち、愛知県は15市町の情報を反映(6月19日現在)。接種後の死亡者数は、1日以内が66人、1週間以内が511人、半年以内が23,942人。



※3 ロット番号(製造番号)

COVID-19ワクチンモデルナ製
COVID-19 Vaccine Moderna Intramuscular Injection
武田薬品工業株式会社
Lot.3005693



ロット番号は、ワクチン接種後に発行された接種済証に記載。モデルナは「Lot」、ファイザーは「製造番号」と記されている。

※4 解析結果 解説動画



荒川央氏らがグラフを示しながら詳細を解説。約12分。

※5 解析結果 論文



解析結果の詳細がつづられたプレプリント論文(英文)。

表1

接種回数	最終接種後1年以内の死亡率
1回目	約0.088%
3回目	約0.80%
5回目	約1.4%
7回目	約2.5%

表2

世代	最終接種後1年以内の日本全体の死亡者数(推計)
18歳未満	約2,967人
18～64歳	約368,476人
65歳以上	約3,518,888人
合計	約3,890,330人